ADS-B性能指数の変化に関する初期検討 監視通信領域 ※本田 純一, 松永 圭左, 角張 航空交通管理領域 大津山



図1 ADS-Bの原理

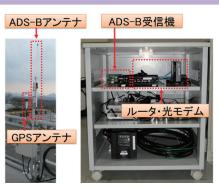


図2 ADS-B受信システム外観

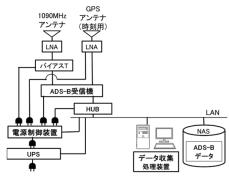


図3 ADS-B受信システム系統図

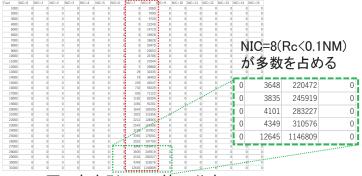


図4 高度別のNIC値の分布

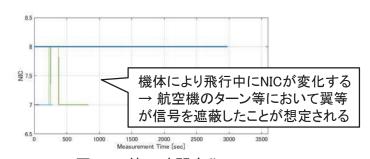


図5 NIC値の時間変化

1. はじめに

航空機監視として、放送型自動従属監視(ADS-B: Automatic Dependent Surveillance - Broadcast)の導 入・検討が進められている. ADS-Bは, 図1に示す通り, 各航空機がGPSにより自機位置を推定し、その位置情報 を周囲に放送することで、地上施設もしくは周辺の航空 機にて発信源となる航空機の位置を把握する.

ADS-Bについては、全ての飛行フェーズにおいて利用 が期待されているところ、その性能評価が終わっていな い. 位置情報はGPSに委ねられるため, 航空路等の遮蔽 物のないエリアについては本来のGPSの位置精度を担 保することができる一方、空港面を中心とした空港近傍 (「空港用」と称す)では、ターミナルビル等の障害物により GPS信号の遮蔽やマルチパスによる信号劣化が生じ、 結 果として位置精度の低下につながる. この点は. 最近 FAAからも問題提起されている.

本研究では、空港用監視にADS-Bを活用するにあたり、 実験による性能評価を実施したので、その初期検討結果 を報告する.

2. 測定方法

図2及び図3に実験用ADS-B受信システムの外観と系 統図を示す. 本実験では、ADS-Bの高度監視に利用して いた機材を活用した. ADS-B受信アンテナには、コリニア アンテナを用い、その利得は4.8dBiである. ADS-B受信 機には、jetvision社のRadarcapeを採用し、受信された信 号はネットワークを介して記録されると共に、データ収集 処理装置によりデータが解析される. データ収集処理装 置で解析された信号は、時間毎に主要な情報(Ver.情報、

位置情報、NICやNACp等の精度)をログとして記録する。

3. 解析結果 初期検討として, 位置精度の検証を行った. 解析対象 はNIC及びNACpとする. NICはNavigation Integrity Categoryの略称でインテグリティを指し、NACpは Navigation Accuracy Category - positionの略称でADS-Bによる位置精度を示す. 一例だが, 航空路で管制間隔 を5NMにするためには、(欧米における)要求値として NIC≥6、NACp≥7が求められる。NIC=6とは、航空機の 推定された位置が理論上0.6NM内に収まることを意味す る. なお、NICとNACpは、数値が大きいほど精度が高くな る. 先に述べたようにADS-Bの信頼性は、そのままGPS 情報に基づくものである. よって, GPS位置精度の信頼性 低下はそのままADS-Bの性能低下となる.

図4に最新のADS-B ver2を対象とした高度別(1000feet 刻み)のNIC値の分布を示す、ここでは、仙台空港に展開 したADS-B受信機を用い、24時間にわたりデータを収集 した. 本結果では、NICが7もしくは8となり、高度によらず 高い性能が出ていることが分かる.なお,98%以上が NIC=8となった. 図5は1時間に亘り取得されたデータの NIC値を機体毎にプロットしたものである. 機体によって は、飛行中にNIC値が変化することが明らかになった.

残念ながら本発表では、空港用監視を想定したターミナ ルビル付近のデータが入っていない。今後は、空港用に 絞ってNIC, NACpの値が変化する場所およびその原因に ついて調査を行う予定としており、空港用監視にADS-B が有用であるのか示したいと考えている.